

｜特集｜

withコロナ

かぜ診療 アップデート

故・田坂佳千先生が2006年に発表された「かぜ症候群の病型と鑑別疾患」という論文は、多くのプライマリ・ケア医にかぜ診療の奥深さを教えてくれました。そして2012年に岸田直樹先生が『誰も教えてくれなかった「風邪」の診かた』（2019年 第2版）を、2013年に山本舜悟先生が『かぜ診療マニュアル』（2019年 第3版）を出版されました。この2冊で、かぜ症候群の基本的な診察法と、かぜと誤診する他の重要疾患との鑑別について、詳しく学ぶことができます。

その後2019年末より世界で、そして日本で、新型コロナウイルス感染症がまん延しています。新型コロナウイルス感染症も、初期はかぜと同じ症状を示します。本特集では、withコロナ時代の今、改めてこの10年間にアップデートされた「かぜ診療」の基本と診断の落とし穴について学びたいと思います。岸田先生と山本先生との座談会をはじめ、本特集では独自の視点から、withコロナ時代を生き抜く「かぜ診療」の智恵も併せて、読者の皆さんにお伝えできれば幸いです。

企画 | 山中克郎





の心得

今月の Questions

Q1 以下のうち、「普通感冒」である可能性が最も高い症例はどれか？ >>> 158

① 35歳、男性。1週間前に鼻汁、咳、咽頭痛を認め、いったん軽快したが、数日後から38℃台の発熱と顔面痛、鼻汁が出現した。

② 65歳、女性。糖尿病あり。3日前から39℃台の発熱、悪寒戦慄を認め、それ以外の有意な症状なし。全身状態は良好。

③ 30歳、女性。3日前から39℃台の発熱、咽頭痛を認める。つばも飲めないほど痛い。

④ 28歳、男性。2日前から発熱を認め、鼻汁、乾性咳、咽頭痛をそれぞれ軽度に認める。

⑤ 40歳、女性。2日前から39℃の発熱と激しい頭痛あり。目も開けず、うずくまっている。

Q2 「かぜ」だと思ったら、どうすればよいですか？ >>> 165

Q3 急性鼻副鼻腔炎と診断したら、抗菌薬を投与すべきでしょうか？ >>> 170

Q4 咽頭痛を伴う発熱で注意すべきことは何でしょうか？ >>> 174

Q5 抗菌薬治療が必要な肺炎は、どう見つければよいでしょうか？ >>> 179

Q6 かぜとコロナ（新型コロナウイルス感染症）を症状で見分けることはできますか？ >>> 183

Q7 かぜとインフルエンザは、どのような違いがありますか？ >>> 188

Q8 かぜ症候群のなかに潜む「敗血症」を見逃さないためには、どうすればよいでしょうか？ >>> 192

Q9 高齢者のかぜ診療で最も留意することは？ >>> 198

Q10 プライマリ・ケア医にとって、小児かぜ診療の「基本のき」は？ >>> 203

Q11 “かぜ症状”で受診された女性は、妊娠中でした。

妊娠中に注意すべきことや薬剤処方はどう考えればよいでしょうか？ >>> 208

Q12 かぜ患者の治療戦略は？ >>> 213